



阿倍野地域活動委員会ニュース

2023、3.12ピースおおさか見学・大阪城戦跡巡りをしました!!



ピースおおさかは
 展示が自虐的であると理由で2015年にリニューアルされたそう。「大阪空襲」を中心に戦争に至った背景→悲惨な戦場→厳しい戦時下の暮らし→戦後GHQによる占領下から高度経済成長を経てたくましく発展する大阪の姿が展示されていました。

戦禍のなかを逃げまどう母子を表現した戦争犠牲者追悼のモニュメントです。(入口前)



ボランティアーガイドさんの案内で、桜門から本丸へ入ると、旧陸軍第四師団の古城を模した立派な洋館「旧ジョップ」が現はれており、若者達で賑わっていました。

南には「中部軍司令部防空作戦室跡」がありました。大戦の末期に建設され敵機飛来方向の予測、迎撃発令無線傍受が行われたそうです。



軍服の展示では
 私達が子供の頃、阿倍野の街角や高野山で日本の為に戦い犠牲になった白装束の傷痕軍人さんがおられたことを思い出しました。

防空壕や焼夷弾の展示では空襲警報が鳴ると家中の電気を消して防空壕に逃げ込んで息をひそめていたと両親から聞いた記憶が甦りました。

以前展示のあった世界終末時計は無くなっていましたが、今年1月に発表された残り時間は90秒です。(原子力科学者会報より)

戦争がもたらす深刻な現実があります。難民、飢餓、虐殺、少年兵、クラスター爆弾、無人兵器、犠牲になるのは普通の人々です。そして子供が1番の犠牲者です

(ピースおおさか展示より引用)



「天守台石垣の爆撃被害跡」
 天守閣の北数メートルの地点に落ちた爆弾により北壁～東壁には大きなひずみが見られました。

「山里丸石垣の機銃掃射痕」
 終戦の前日8月14日に受けた機銃掃射によるくぼみがありました。

「大阪砲兵工廠」
 大阪城東側にアジア最大規模の軍事工場があったそうですが、同じく前日の空襲で壊滅し赤レンガのネオバウンス建築の「科学分析場」のみひっそりとたたずんでいました。



何人も訪れた大阪城ですがこんな身近に戦争の傷跡が残っているのを思えば、残存しただけに学術的に利用されていたら悲しくなってしまうので、生かすことにしました。ひとたび戦争が起これば、いっしょに壊れてしまうので、史実をなげき改めたいと思います。

終戦後も戦争自体の被害よりも更に大きく長く続く悲惨な現実や戦争を引き起こす様々な要因についても分かりやすく展示解説されています。是非皆さんでお出掛けください!!

